

科 目	動物臨床検査学		
担当講師 石井崇志 実務経験有 獣医師免許 大学卒業後動物病院に勤務し獣医療に従事 (20年)			
開講年次	授業形態	選択/必修	授業時間
動物看護、動物管理学科 1年次前後期	講義	必修	30
授業目標 検体を用いる検査と生体検査の目的と意義を理解し手技に活かす。検体検査では、糞便、尿、血液、その他（細胞）の検査の意義を理解する。生体検査ではエックス線の発生機序、生物作用と防護、超音波の基本原理、心電図、内視鏡、CT、MRIの基本原理について学ぶ。			
授業概要 主な検査機器について理解する。解剖学、生理学、看護学との関連性を正しく理解する。実際に尿、便、眼、耳等の検査やレントゲン、超音波診断、CT、細胞診等の手技を実践する。			
成績評価の方法 評価の基準は筆記試験による。また本科目受験には出席率が3分の2以上であることが必要。試験は80～100点がA評価、70～79がB評価、60～69までをC評価とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし評価はCとなる。			
教 材 動物看護コアテキスト6巻動物看護の実践 (P68～P133 ファームプレス) 動物看護実習テキスト (P122～P194 インターズー)			
授業計画 毎週木曜日 3限目 13:20～14:50			
回	テーマ	授業内容	
1	臨床検査学概論	臨床検査の目的と動物看護師の役割	
2	臨床検査の種類	臨床検査の種類	
3	主な検査機器①	検体検査、生体検査に使用する主要な検査機器	
4	主な検査機器②	検体検査、生体検査に使用する主要な検査機器	
5	解剖学、生理学、看護学との関連性①	内臓、骨格、脳、神経の名称、数および位置関係各臓器のはたらきと臨床検査との関連性を知る	
6	解剖学、生理学、看護学との関連性②	内臓、骨格、脳、神経の名称、数および位置関係各臓器のはたらきと臨床検査との関連性を知る	
7	尿検査	概論、採尿法、取扱い、検査項目、手技、評価	
8	糞便検査	概論、採便法、取扱い、検査項目、手技、評価	
9	血液検査①	概論、採血法、取扱い、検査項目、CBC、生化学	
10	血液検査②	血液塗抹標本の作製	
11	眼科検査、	眼科検査概論、手技	
12	耳の検査	耳の検査概論、手技	
13	皮膚科検査	皮膚科検査概論、手技	
14	総合テスト	動物臨床検査学の理解度を確認する	
15	レントゲン検査①	概論、意義と基礎的知識	
16	レントゲン検査②	概論、意義と基礎的知識	

17	超音波検査①	概論、意義と基礎的知識
18	超音波検査②	概論、意義と基礎的知識
19	心電図検査①	概論、意義と基礎的知識
20	心電図検査②	概論、意義と基礎的知識
21	内視鏡検査①	概論、意義と基礎的知識
22	内視鏡検査②	概論、意義と基礎的知識
23	神経学的検査	概論、意義と基礎的知識
24	CT・MRI 検査	概論、意義と基礎的知識
25	細胞診検査	概論、意義と基礎的知識
26	微生物学関検査①	概論、意義と基礎的知識
27	微生物学関検査②	概論、意義と基礎的知識
28	総合テスト	動物臨床検査学の理解度を確認する